

# 自立した主権者 をめざして



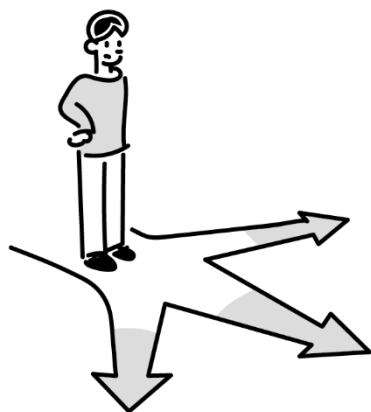
## Vol.12 機能する社会への選択肢

### KEYPOINT

- あなたにとってコロナ禍の影響は
- 所属する組織が機能するためにあなたはどう変容するのか

### SUMMARY

コロナで変わったのは、生活様式だけではありません。コロナ禍にあって生活を続けるために生み出された数々の手法は、同時に私たちの生き方を問うことになりました。自分の選択に自信をもって生きられる社会とは、どんな社会でしょうか。



### 選択肢の数だけ問われる私たちの生き方

コロナが世界に影響を及ぼし始めたのは約2年前。そこから私たちの生活は激変しました。当初は何が起こっているのかわからずパニックを起こした状態から今、まがりなりにも学校が再開し、企業や店舗が活動を再開し始めました。以前と同じようで全く違う生活。具体的に日常生活の様々なところで起こったのは、「選択肢の増加」でした。以前学校は「行く」「行かない」の2択しかありませんでした。そこに、「オンライン授業」という選択肢が入りました。また、会社も、「リモートワーク」という選択肢が増えました。飲食店では「テイクアウト」や「デリバリー」ができるようになりましたし、コロナ対策のワクチンを打つか打たないかですら選択制で実施されています。これは、私たちにとってのパラダムチェンジです。今まで当たり前と思っていたことがなくなるということは、コロナがあっても日常生活をストップさせないという単純なものではありま

せん。私たちは従来のような「決まり事」をまもって生活すればよいわけではなくなりました。常に「どうするか」を自分で考え、方法を選択することがせまられるようになってきたのです。

例えば学校の登校について、必要だと思っから行かせる、感染が怖いと思っから行かせないという意見があり、行かないと、授業以外の学校生活を享受することができません。しかし行けば、感染のリスクは高くなります。学校は選択肢を提示し、それを選ぶのは子どもと保護者であるというわけです。どちらも間違いではありませんし、正解でもありませんが、「学校とは本来何をするとところだろう」と学校側も保護者も考えることが求められます。

### どの未来に向けて「機能する社会」をつくれるのか

同様の事は社会全体にも当てはまります。リモートワークを選択肢に加える業種は就業に対する評価基準やチームでの仕事の仕方を再検討することになりますし、加えられない業種、例えば飲食などは営業時間の変更だけでなく、デリバリーを実施することに伴う従業員の確保やそれに伴ったメニューや商品価格の変更などが必要で、ここでは「働き方」、「仕事」が問われます。行政や議会もまたIT化やオンラインでの本会議等の解禁を促す声もあがりはじめていますが、これも単純に効率化やペーパーレス化のためだけ

に検討するわけではないことは明白です。

選択の先にあるのは常に「これからどういう社会を望むのか」というビジョンです。選択には必ずメリットとデメリットが存在し、多方向からの意見が出されます。今まで当然とってきたことの何を守り、何を変えるのか。その結果は望ましい未来の実現のためであるべきで、意思決定の場面でそのことが共有化されていないければ、「機能する（十分に役割をはたす）」ことが出来ず、同時にどう機能するのかという内容さえ変わってしまいます。今様々な自治体で行われている選挙もまた、私たちの選択で成り立ちます。人は何のために生きて行くのか、つまり「人権ジェンダー平等」の視点で候補者の訴えに目を通してみると見え方も変わってきます。

### 社会的な関係性のみが「誰一人取りこぼさない社会」をつくる

共通の認識を持つには、家族、職場、地域など、従来の関係はそのままに、その関わり方を新しく変えていこうという意識と努力が必要になります。異なる年齢、性別、価値観を持つ人たちが目の前にある問題を解決するために意見交換し、合意形成をしていくわけですからやりにくいし、自分と同質性の高い人とだけで結論を出したくなることはよくわかります。しかし、簡単ではないと認識しつつそれでも他者と関わり、社会的な関係をつくって行かなければ、各自の意思のもとに

選択を行っていくことが求められるこれからの社会の中で、自己を肯定して生きていくこと自体が難しいものとなるでしょう。なぜならそれは自分自身を社会的価値観から検証する事を伴うからです。例えば現在実施されている自民党総裁選の4人は全員政府や党の要職にいるにも拘わらず、これまでの施策の検証や自己批判を抜きにあれこれの新たな施策を提起しています。これは無責任と言わざるをえません。他を受け入れることは自分も他に受け入れられることにつながります。その延長線上に「誰一人取りこぼさない社会」の実現が見えて来ます。

生きていくことは選択の連続です。自分で選択することで自分の人生の可能性が広がる、そんな当たり前の社会の実現は、コロナ禍によって加速され、あなたもまたその中にいるのです。

#### 〈機関紙「日本再生」No.508 の内容〉

2021/08/01 発行

「機能する政治」へ政治をあきらめるな

●2-7 面/コラム/一灯照隅 ●8-10 面/インタビュー/米中対立と EU 遠藤乾・北海道大学教授に聞く●10-12 面/コロナ禍の学生たち 大内裕和・中京大学教授に聞く/8-10 面/ミャンマー情勢と ASEAN 大庭三枝・神奈川大学教授に聞く

※ 機関紙「日本再生」のご購読をご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。

一緒に  
考えてほしいこと

あなたにとって「望ましい社会」とはどのようなものですか？  
「機能する社会」をつくるために、あなた自身はどう変わりますか？

#### 【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所：埼玉県越谷市大里 226-1 白川ひでつぐ事務所  
担当：吉田理子  
ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP 埼玉読者会 note



がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義」を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。